

〈論文〉

ポーランド・ウヅジ市における持続可能な都市への諸施策

大城 純 男¹

1. はじめに

近年、持続可能な都市について、ますます多くの研究が発表されている。ここで、持続可能な都市とは、都市の環境・経済・社会などの諸側面を含む概念である。

例えば、岡部明子（2003）は次のように述べている。

「サステイナブルシティとは、何が維持可能な都市のことなのだろうか。経済成長だけが持続して生き残ったとしてもしかたないし、人工的に管理される都市の緑を増やし美しく維持していくことだけでもない。サステイナブルシティの本質とは、都市に人が住み続け、人の生活が維持可能な都市のことではないだろうか」

また、Williams et al. (2000) は、持続可能な都市形態について、地域の特性によって差異があるとはいえ、一般に次の5つの共通点があると述べている（海道清信（2001））。

- ① 都市形態のコンパクトさ
- ② 混合用途と適切な街路の配置
- ③ 強力な交通ネットワーク
- ④ 環境のコントロール
- ⑤ 水準の高い都市経営

持続可能な都市形態の一つのモデルが、イギリスで主張されている「アーバンビレッジ」であるが、そのモデルの主な特徴は次の諸点である（海道清信（2001））。

- ① 商業・業務など非住宅の活動をひきつけるような居住地密度と規模の確保。
- ② 居住者が徒歩や自転車で用事を済ませる範囲に、住宅と一体となった買い物・

¹ e-mail: oshiro@sapporo-u.ac.jp

レジャー・コミュニティ施設などの基本的なアメニティが配置。

- ③ 公共交通・徒歩・自転車が使いやすい全体デザイン。
- ④ 多様な所有形態の住宅の存在と、様々な階層の同一コミュニティへの居住。
- ⑤ 優れたデザインと、地域に根差した個性・独自性の重視。
- ⑥ 計画・開発・経営への地域住民の参加。
- ⑦ 環境・経済・社会的な持続可能地域。

さらに、Calthorpe,P. (1994) は、公共交通指向開発モデル (TOD, Transit Oriented Development) の7つの原則について、次のように列挙している (海道清信 (2001))。

- ① 地域はコンパクトで、公共交通に支えられて成長する。
- ② 商業・住宅・就業・公園・市民施設が駅から歩ける範囲に配置される。
- ③ 歩きやすい通りが地域の目的地に直接結ばれている。
- ④ 型・密度・価格が様々な住宅が供給される。
- ⑤ センスの良い居住地・水辺、質の高いオープンスペースを保全する。
- ⑥ 建物の配置や近隣の活動に配慮して公共空間をつくる。
- ⑦ 既存の近隣にある公共交通路線に沿って空地での建設や再開発を促進する。

以上のような持続可能な都市のモデルには、共通性がみられる。

そうした共通性の視点から、本研究では、ポーランドのウッジ市 (Lodz) についての持続可能な都市への諸施策を調査・分析した。

ウッジ市のポーランドにおける位置は図1に示した。



図1 ポーランドにおけるウッジ市 (Lodz) の位置

ウヅジ市に関する本論文は、筆者が2009年8月26日に、49th Annual Congress of the European Regional Science Association International (at Lodz University, Poland)[第49回欧州地域学会大会]で研究発表した際に、学会の前後に、市内を現地調査し、またウヅジ市役所からヒアリングを行った結果をまとめたものである。²

2. ウヅジ市 (Lodz) の持続可能な都市への諸施策

2-1 ウヅジ市の概要

ポーランドのウヅジ市は日本ではあまり知られていないが、人口規模ではワルシャワに次いで、国内第2位の都市である。18世紀までは大規模な都市ではなかったが、19世紀前半に紡績産業が盛んになり、国内はもちろん海外からも多くの人々が移住してきて、このような大きな都市として成長した。

現在は、近代的なテクノロジーを基礎とする企業が多数立地している。

都市の持続可能性のためには、公共交通網が重要なインフラとなる。現在、ウヅジ市内には地下鉄は存在していないが、密度の濃い市電(tram)のネットワークが形成されていて、旅行者にも便利である。実際に私も、学会開催中のホテルからウヅジ大学までの移動は市電を利用した。市電のネットワークマップを図2に示した。密度の高いネットワークになっており、運行頻度も高く、都心部の移動のためには市電で十分であり、公共交通インフラの整備レベルは高いといえる。

2-2 産業遺産を活用した都市づくり

先述したように、ウヅジ市は19世紀に紡績産業で成長した都市である。しかし、日本と同様に紡績産業自体はポーランドにおいても衰退産業となったため、ほとんどの工場が閉鎖されてしまった。

しかし、紡績産業によって大都市に成長したというアイデンティティを継承するために、旧紡績工場やこれに伴う厚生施設、文化施設、宗教施設などを保存する活動が行われている。

私たち国際地域学会会員もアフター・コンベンションのツアーでこうした旧工場群の視察を行い、説明を受けた。その様子が図3である。

² なお、この海外学会への出席および現地調査については、「2009年度札幌大学研究助成」による助成を受けた。学会発表の論文“Changes in Regional Population Distribution and the Compact City Policy in Japan.”(2009)は既に、*The Sapporo University Journal*, 2009, No.27に掲載されている。

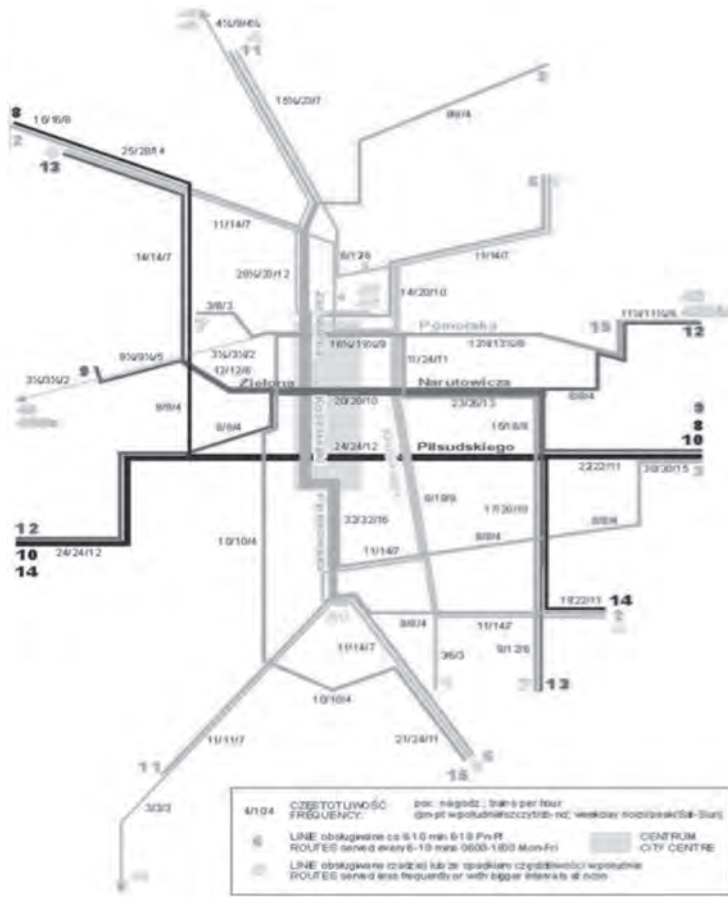


図2 ウッジ市における市電のネットワークマップ



図3 旧紡績工場施設について説明を受ける国際地域学会会員

また、他方で、第二次大戦下、ドイツ軍のポーランド侵攻に伴い、ウヅにはユダヤ人などを収容するゲットーが大規模に建設され、多くの人々が収容されたという負の歴史も有している。実は、当時の紡績工場の経営者の多くもユダヤ人であった。大戦中、ウヅのゲットーには30万人以上のユダヤ人などが強制収容され、40万人以上が犠牲になったといわれている。こうした強制収容の歴史を忘れないための施設が図4に示されている。



図4 ウヅ市における強制収容所の犠牲者を慰霊する施設

このように地域の歴史を目に見える形で保存していくことは、都市のイメージにも重要な影響を与え、都市の風格を高めることにもなる。都市の持続性を確保するために欠かせない施策である。



図5 大規模再開発「マニユファクトラ」(Manufaktura)のエントランスのファサード

2-3 再開発施策

ウッジ市では、歴史的な建造物を保存しながら、他方で、新たな大規模再開発を行っている。そのもっとも顕著な事例が図5、図6に示した「マニユファクトラ」(Manufaktura)である。旧紡績工場跡地を再開発し、220のプチィック、30の中規模店舗、レストラン、映画館、ディスコ、クライミング・ウォール、ボーリング場、フィットネス・クラブ、工場博物館などを有した、ヨーロッパでも有数の施設となっている。



図6 「マニユファクトラ」(Manufaktura) のオープン・カフェを楽しむ人々

2-4 都心のにぎわいづくり

さらにウッジ市では、都心のにぎわいを促進する施策にも取り組んでいる。

市内きっての繁華街であるピオトルコフスカ通り (Piotrkowska) は、南北に連なる主



図7 ピオトルコフスカ通りのにぎわい

要道だが、終日・通年の歩行者天国となっている（図7）。沿道には多くのオープン・カフェやショッピング・センター、市役所分庁舎などが立地している。また、市歴史博物館などもこの通りに面して配置されている。昼間から、多くの人々がカフェでくつろいだり、人力車に乗ったりして、まちを楽しんでいる。こうして、まちのにぎわいを演出している。

3. 考察と結論

ウッジ市は、以上述べたように、国内第2位の都市に甘んじることなく、持続可能な都市への諸施策に取り組んでいる。次のような諸施策が効果を上げており、日本の諸都市にとっても学ぶべき価値があると考えられる。

- ① 鉄道・バスで補完しながら市電を中心に都心での交通ネットワークを形成すること。
- ② 負の遺産も含めた歴史的遺産を活用して、風格のある都市を形成すること。
- ③ ②を保全しながら、他方で適正な再開発やジェントリフィケーションを促進していくこと。
- ④ まちのにぎわいづくりのために、歩行者天国などの歩くことが楽しくなる道路の建設、道路の運用を図ること。

4. 今後の課題

今回の研究では、ポーランドのウッジ市の持続可能な都市への諸施策の調査・分析を行ったが、さらに他の海外・国内の諸都市についても現地調査を行ったり、都市施策の分析を行っていく必要がある。

参考文献

- Breheeny, M. (1996) : "Centrist, Decentrist and Compromisers: Views on the Future of Urban Form" ,
Jenks, M et al. ed: *The Compact City : A Sustainable Urban Form?*, E&FN Spon.
- Burton, Elizabeth (2000) : "The Compact City: Just or Just Compact? A Preliminary Analysis,"
Urban Studies, Vol. 37, No.11.
- Calthorpe, P. (1994) *"The Next American Metropolis,"* Princeton Architectural Press.
- Jacobs, J. (1961) : *The Death and Life of Great American Cities*, Random House, New York.
- Jenks, M., Burton, E. and Williams, K. ed. (1996) : *The Compact City : A Sustainable Urban Form?*,
E&FN Spon.

- Kawashima,T. (1985) : "Roxy Index: An Indicative Instrument to Measure the Speed of Spatial Concentration and Deconcentration of Population," *Keizaironshu*, Gakushuin university.
- Klaassen,L.H., Molle,W.T.M, Paelinck,J.H.P. (1979) : *Dynamics of Urban Development*, Gower.
- Klaassen,L.H., Bourdrez,J.A., Volmuller,J. (1979) : *Transport and Reurbanisation*, Gower.
- Newman,P. and Kenworthy,J. (1989) : *Cities and Automobile Dependence : A Sourcebook*, Gower Technical.
- Oshiro,Sumio (2009) : "Changes in Regional Population Distribution and the Compact City Policy in Japan", *The Sapporo University Journal*, No.27.
- Roychansyah,Muhammad,Sani, Koichi Ishizaka and Takashi Omi (2005) : "A Study of the Indicators for City Compactness Measurement: case study of 63 cities in Tohoku region in 1980-2000," *Journal of Architectural Planning*, AIJ, No.595, Sep.
- Williams,K.,Burton,E. and Jenks,M. ed. (2000) : *Achieving Sustainable Urban Form*, E&FN Spon.
- 大城純男 (2003-a) 「日本の大都市における人口再集中の分析」, 『人口学研究』, 日本人口学会, 第33巻。
- 大城純男 (2003-b) 「一般均衡モデルによる日本の大都市のアメニティ評価」, 『地域学研究』, 日本地域学会, 第33巻1号。
- 大城純男 (2004) 「日本の大都市における人口移動の構造変化と都市政策」, 中京大学経済研究所 Discussion Paper Series, No.309, 単著
- 大城純男 (2005) 「日本の大都市雇用圏 (MEA) における集積の経済と社会資本の生産力効果」, 『応用地域学研究』, 応用地域学会, 第10号。
- 大城純男 (2007) 『都市の環境評価と都市政策』, 大学教育出版。
- 岡部明子 (2003) 『サステナブルシティ～EUの地域・環境戦略』, 学芸出版社。
- 海道清信 (2001) 『コンパクトシティ』, 学芸出版社。
- 海道清信 (2007) 『コンパクトシティの計画とデザイン』, 学芸出版社。
- JTB パブリッシング (2008) 『ワールドガイド チェコ・ハンガリー・ポーランド』, JTB パブリッシング。
- 鈴木浩 (2007) 『日本版コンパクトシティ』, 学陽書房。
- 谷口守 (2008) 「コンパクトシティ論」, 『21世紀の都市像』, 近畿都市学会編, 11-21, 古今書院。
- 谷口守 (2009) 「コンパクトシティとTODをめぐる計画論」, 『都市計画』, Vol.58,No.5,281,5-8.
- 玉川英則編 (2008) 『コンパクトシティ再考』, 学芸出版社。
- 地球の歩き方編集室 (2009) 『地球の歩き方 A26 チェコ / ポーランド / スロヴァキア』, ダイアモンド・ビッグ社。
- 富山市ライトレール記念誌編集委員会 (2007) 『富山ライトレールの誕生』, 鹿島出版会。
- 日本経済新聞社産業地域研究所 (2010) 『サステナブル都市への挑戦—全国都市のサステナブル度評価』, 日本経済新聞社。
- 福川裕一・矢作弘・岡部明子 (2005) 『持続可能な都市～欧州の試みから何を学ぶのか』, 岩波書店。
- 松永安光 (2005) 『まちづくりの新潮流』, 彰国社。
- 山本恭逸 (2006) 『コンパクトシティ—青森市の挑戦』, ぎょうせい。